



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報企画室

第5号
2005.10.26

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に本学が選定

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP(グッド・プラクティス))は、文部科学省が「各種審議会からの提言を基に社会的要請の強いテーマを設定して、各大学等から申請された取組の中から、特に優れたプロジェクトを選定して財政支援を行うとともに情報発信し、高等教育全体の活性化を促進すること」を目的として実施している事業です。

公募対象となる取組は、「国公立の大学・短期大学・高等専門学校における「学生教育に関する取組」のうち、各大学等がテーマの趣旨・目的に沿って確実な計画のもとに新たな大学教育改革を図ろうとしているもので、我が国の大学教育改革に資する取組」を対象としています。

本年度は、全国の国公立大学等から申請のあった509件の中から、84件の採択がありました。そのうち、「地域活性化への貢献(地元密着型)」の公募テーマで、奈良女子大学の下記のプログラムが選定されました。

地域の変革を促す女性人材育成プログラム

— 歴史的市街地に立地する大学を地域社会変革の拠点とする —

取組担当者：上野 邦一 生活環境学部長

本プログラムは、地域づくりの人材育成を進めるため、これまで個別に取組んできた地域との連携を生活環境学部として体系化する教育改革である。具体的には、授業、演習等で実施してきた取組を①商店街の活性化、②女性起業家から学ぶ、③歴史的生活・町屋から学ぶ、④住宅地の居住環境整備、⑤安全・安心のまちづくり、⑥歴史的景観の現代的再生の6つのテーマに整理し、学生達の関心に沿って、性質の異なる三地域で実践的に学べるようカリキュラム、シラバス等を改善するものである。同時に、このプログラムを通じて地域活性化に役立つ能力を養成し、学生達が大学周辺の地域活性化に貢献しようとするものである。地域活性化への貢献で最も重視した点は、地域と連携した教育改革を通じて、意欲と能力のある女性が地域で活躍できるように、地域社会の変革を促すことである。

古代学学術研究センターを設置

平成17年6月24日付けで古代学学術研究センターが設置されました。平成10年3月に設立準備室が発足してから七年にわたり共同研究・シンポジウムを開催し、その成果を積み上げてきました。平成12年度からは財団法人国際高等研究所との共同研究もスタートし、一般公開講演会・公開シンポジウムを開催してきました。このような準備が21世紀COEプログラムの採択に結実しました。メンバーはCOEの推進に全力を挙げています。センターとCOEの両輪をフルに動かし、奈良女子大学が古代学研究の文字通りセンターの機能を果たすことが期待されます。

ユニバーシティ・アイデンティティ(UI)戦略について

奈良女子大学広報企画室では、大学のイメージを内外に伝え、対外的に大学についての良好なイメージを社会に構築するコミュニケーション活動として、UI戦略に着手しています。

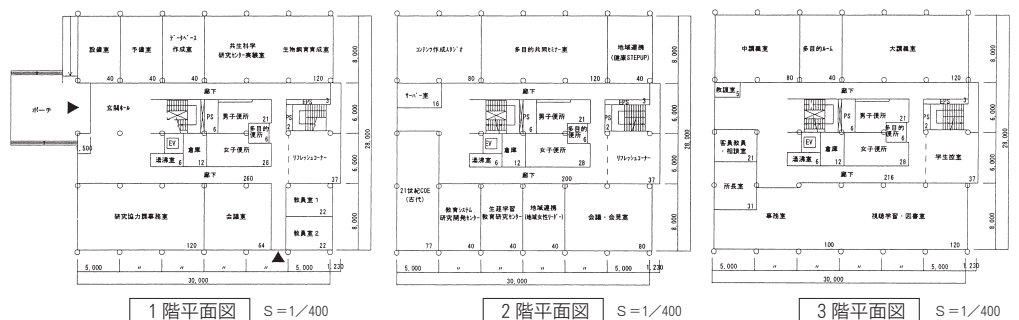


①近鉄奈良駅地下コンコースにイメージポスターを設置
②大学周辺道路に大学の標示を設置

コラボレーションセンターの配置図決まる

— 3階には放送大学奈良学習センターが —

コラボレーションセンターは、今年の4月から事務局棟東側に建設が進められていましたが、11月末に完成の予定です。センターには、図のように各種研究センターや研究協力課事務室、また地域連携関係の部屋等があり、3階には放送大学奈良学習センターと講義室等があります。社会に開かれた建物としての存在感を示すことが期待されています。



21世紀COEプログラム 国際シンポジウム「古代日本の言語文化」を開催

奈良女子大学が選定されている21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」事業の一環として企画された2005年度の国際シンポジウムは、我が国最古のアンソロジーである『万葉集』成立1200年記念のシンポジウムとして、主として言語文化のメンバーを中心として8月20日(土)～24日(水)にわたり開催しました。

第1日目は、「古代日本文学と万葉集の表記」と題するテーマで開催。万葉集の成立に関しては、諸説があるものの、『古今和歌集』の序に記された平城天皇の大同元年(806)成立とする説が、最も有力です。その万葉集の表記をめぐるのは、古代日本語全体の表記の問題と関連して、さまざまに議論されてきたところですが、「難波津」木簡の出土その他、最近の考古学の発掘成果により大きな進展を見せています。その現状を踏まえて、これまでの表記研究の成果を発展的に批判し、今後の古代日本語表記の研究、ことには万葉集の表記の研究のあり方について論議が重ねられました。

第2日目は午前が「海外における古代日本文学受容の実態と課題」、午後が「中国語・中国文学の受容について」というテーマで開催。タイ、カナダ、韓国、台湾からの4名の研究者による基調報告を基に、アメリカの研究者も交えて様々な角度から討議を行うことができました。

第3日目から5日目にかけては、若手研究者支援プログラムを開催。北は北海道・東北から南は九州にいたるまで全国の大学・大学院から60名を越える参加者があり、盛会でした。



シンポジウムの様子

平成17年度第一回オープンキャンパス

7月30日(土)、平成17年度第1回目のオープンキャンパスが開催されました。天候にも恵まれ、昨年を大幅に上回る1,136名の参加者がありました。



模擬講義の様子

当日は、久米学長が大学全般について紹介した後、参加者は希望する学部・学科で模擬講義や実験等を体験しました。また、入試や大学での履修、留学や学生生活関係(寮・奨学金・就職)などに関する相談を受けるコーナーでは職員のほか、在学生が先輩として対応しました。

学生寄宿舎、附属図書館、総合情報処理センターなどの施設見学のほか、記念館(国の重要文化財)では在学生音楽系サークル有志による演奏が行われ、オープンキャンパスを盛り上げ、参加者には大学の特色が十分に伝わった様子でした。なお、オープンキャンパスは年2回開催予定であり、次回は10月30日(日)を予定しています。



音楽系サークルによる演奏

女高師時代のピアノ

奈良女子高等師範学校の授業開始(明治42年5月1日)と同じ月に購入された1台のグランドピアノは、当時の外観を保つよう、約4ヶ月にわたり丁寧に修復され記念館に戻ってくる時を待っています。脚部・譜面台などの彫刻は細かく、金色に輝く鉄骨フレームにある見事な装飾など艶やかな黒色本体からは、品格と威厳を感じます。響板に「山葉鑿製」の楕円形シールがあるほか、鍵盤蓋には内国博覧会の褒章メダル模様もあり、日本でのピアノ製作における初期製品のようです。一般の方にも修復されたピアノの音を楽しんでいただけるミニコンサートの開催を、企画・検討しております。詳細は決まり次第、本学HPに掲載いたします。



近畿地区国立大学体育大会の結果

第43回近畿地区国立大学体育大会(当番大学：滋賀大学他)が8月4日(木)～26日(金)に開催され、各種目の熱戦が繰り広げられました。

奈良女子大学は9種目に参加し、総合成績では惜しくも入賞を逃しましたが、次の団体が見事入賞を果たしました。

<団体>

- 卓球 (第2位)
- 硬式テニス (第3位)
- 弓道 (第3位)



試合の様子

学生表彰式

奈良女子大学では、平成16年度から課外活動または社会的活動等において顕著な業績や成果を挙げた学生を表彰するための学生表彰制度を設けています。今回は次の2名の学生と1団体が表彰を受けました。

- (個人) 久米学長から表彰を受ける学生
上野 明日香(生活環境学部4年生・アイススケート部)
第4回関西学生フィギュアスケート競技大会2部女子3位
第25回国立大学フリースケーティング競技会Aクラス女子第1位
- 鈴木 智菜(文学部2年生・アイススケート部)
第25回国立大学フリースケーティング競技会Dクラス女子第2位
- (団体)
アイススケート部
第25回国立大学フリースケーティング競技会女子総合第3位



三年目を迎えた地域貢献事業 －健康なら21Stepアップ事業－

高齢者が身体活動的に自立し、Quality of Lifeを維持するために支援し、指導者の育成を図ることをめざすこの事業も、今年で三年になります。この間に当事業の「指導者サロン」に会員登録したボランティアの方々は約160名。この方々を対象に、年に4回「フォローアップ研修会」を開催してきました。講義と実習、それに県下各地区からの情報交換など。参加者には、様々なプログラムを楽しんでいただきました。文学部スポーツ科学講座では教員はもとより、院生や学生やOGなど関係各位にも協力をお願いしつつ、和気あいあいの内にこの事業を進めています。



一、二年目に開発・普及した「元気体操」（「元気」「澁刺」「いきいき」の体操三部作）は、すでに県民を対象としたテレビ報道や行事などでも紹介・実践されてきました。三年目を迎えた今年は、新たに「ナビゲーション・ウォーク」を提案しており、12月11日（日）には奈良公園で県が主催する県民大会として実践されます。



公開講座風景

奈良女子大学理学部数学科では、平成14年度から、理数離れ対策の一環として、小中学生向けの公開講座を開いております。本年度は「親子で体験マテマチカ2005」と銘打ち、小学校高学年の児童と保護者のペア



写真1

20組を対象として8月20（土）、21日（日）の両日に開催しました。

初日の講演は「数で遊ぼう」（担当：上田）《写真1》と題して、分数を小数に直す時に現われる循環小数のひみつとその仕組みについて、紙に自分の手で計算しつつ味わってもらいました。二日目の講演は「色々なものはかってみよう」（担当：柳沢）《写真2》と題して、図形に関するいくつかの問題について、実際に面積や長さを測ったり、道具を用いて実験したりして、その意味を理解していきました。



写真2

両日とも会場の理学部会議室は大入り満員の盛況でした。参加した小学生たちは、講演した教員と補助の学生の指導の下、保護者といっしょになって計算にてこずったり首をひねったりしながら、数や図形の不思議を楽しんでいました。

奈良町セミナーハウス調印式

奈良女子大学では、平成15・16年度に地域と連携して10件の地域貢献特別支援事業を実施し、そのうちの一つに「奈良町の町並み保全・活用事業」がありました。この事業で、奈良町に増えつつある空家を活用する事例として、大学が利用するセミナーハウスを提案し実践することになり、6月27日（月）、久米学長と町家の所有者、正木康雄氏との間で正木家所有の町家を奈良女子大学「奈良町セミナーハウス」として利用する覚書の調印が行われました。



調印式の様子

正木家は奈良町のほぼ中央部に位置する毘沙門町にあり、町家特有の通り土間、土間には、かまど・井戸がのこり、棟には煙出しがあります。これらから、伝統的な住まいの様子がわかるだけでなく、土間上部の梁組が見え、伝統的な構造も理解できます。これらの構造・意匠からみて、明治時代前期の建物であると推定されます。



「奈良町セミナーハウス」として利用される正木家

10月31日（月）のオープンセレモニーにむけて最小限の修理・改造を行っており、この建物で大学のセミナー、講義、会議及び展示など大いに活用されることが期待出来ます。

佐保塾 －社団法人佐保会主催－

奈良女子大学構内にある佐保会館は、平成17年度の国の登録有形文化財に指定されました。この会館では今年度より社団法人佐保会（奈良女子高等師範学校・奈良女子大学同窓会）主催による「佐保塾」が多彩に催され、学外から小さな子供さんをはじめ多くの方が参加し、開催日にはにぎやかな声が響いています。9月11日（日）に開催された第四回佐保塾では、生活環境学部 上野邦一学部長による「奈良の近代化と和風意匠を考える」の講演会



「佐保塾」の様子

がありその後、佐保会館の見学と建築史の視点からの説明がありました。「佐保塾」の他、佐保会では「佐保カルチャー」としての講演会企画も10月以降3件が予定されています。



国の登録有形文化財に指定された佐保会館

国際交流センターホームページ開設

奈良女子大学国際交流センターでは、今年7月に同センターのホームページを開設しました。

このホームページは、奈良女子大学の留学生や外国人研究者、留学や海外での研究を考えている奈良女子大学の学生や研究者のために、学習・生活支援情報を分かり易くタイムリーに提供するためのサイトとなっています。

学内はもちろん、地域で行われる行事等も含めて様々な催し物の開催や参加者募集の情報、留学説明会の実施情報、センターで貸し出ししている図書のリスト等、有用な情報を見ることが出来ます。また、これらの事業の実施報告が順次掲載されています。

今後も随時更新を重ね、最新情報を提供することに努めると同時に新たなコーナーを設けるなどして内容をより充実させていく予定です。

(<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/index.htm>)



外国人留学生実地見学旅行

9月15日(木)、16日(金)の両日、名古屋方面への留学生実地見学旅行を実施しました。留学生43名が参加し、日本で35年ぶりの本格的な万博となった「2005年日本国際博覧会、愛・地球博(愛知万博)」を中心として、「キリンビール名古屋工場」、陶磁器メーカで有名な「ノリタケの森」を見学しました。

「愛知万博」では、平日にも係わらず、閉幕を間近に控え入場者も多数でしたが、留学生は、目的のパビリオンへの入館を目指し、長蛇の列に加わっていました。

特に母国のパビリオンには興味を示し、出展作品や土産物など感慨深く見学していました。中には3回目だというベテラン留学生もあり、リピーターに支えられた万博であったことを窺い知ることができました。



愛知万博で

キリンビール名古屋工場では、営利を目的とした企業でありながら、温暖化防止のためCO₂排出量削減の目標値を設定するなど、地球環境問題にも真剣に取り組まれている事業活動に感心していました。

さらに、「ノリタケの森」では、童心にかえて陶器の皿やマグカップへの絵付けを体験するなど、留学生相互の交流と親睦を



真剣に絵付けに取り組む留学生たち

図りながら、日本をより深く理解するとともに、環境問題についても再認識した有意義な見学旅行でした。

学長と留学生の懇談会

7月15日(金)、「学長と留学生の懇談会」が開かれ、久米学長と奈良女子大学で学ぶベトナム、マレーシア、中国、韓国出身の博士課程に在籍する留学生4名が約2時間にわたり和やかに懇談しました。懇談会は学長の挨拶に始まり、留学生の自己紹介、研究の進捗状況の報告、現在困っていることや学長への要望等、内容は多岐に及びましたが、全員が研究者を目指している学生であることから、自ずと話題は研究環境に関することへと集中しました。留学生は、落ち着いた環境で勉強出来ることに満足している様子でした。留学生にとって、普段は接する機会の少ない学長と直接話をする事ができ、大変有意義な時間となったようです。



国際交流基金使途報告

国際交流基金の平成17年度の主な留学生等支援については次のとおり予定しています。

- 外国人留学生奨学金 9名(博士後期課程4名、博士前期課程4名、学部1名)に対し、一人月額4万円を1年間支給
合計 432万円
- 派遣留学奨学金 5名に対し、一人10万円を支給
合計 50万円

平成16年度に支援した学生の留学先は次のとおりです。

韓国：梨花女子大学、ソウル大学
オーストラリア：キャンベラ大学
英国：オックスフォード大学
オーストリア：グラーツ大学

- 留学生スピーチ大会援助 発表者 一人1万円の図書券を進呈
合計 10万円